

2016-11

学会通信

平成 28 年 11 月 25 日

NO.83

工業経営研究学会

Association for the Study of
Industrial Management (Japan)

第 31 回 全国大会を終えて

第 31 回全国大会実行委員長

中川 誠士 (福岡大学)

第 31 回全国大会は、9 月 8 日から 9 月 10 日までの 3 日間、80 名を超える会員にご参加いただき、福岡大学七隈キャンパスにて開催されました。

1 日目は、トヨタ自動車九州株式会社・宮田工場（第一組立工場 / エコセンター・アクアコントロールセンター）の工場見学が行われました。工場見学では、レクサスの製造ライン、自動車の製造により排出された廃棄物のリサイクル施設の見学を行いました。工場見学後は、お忙しいなか急遽、原田聡（取締役 調達室担当経営企画室長）氏に工場見学参加者からの質疑に答えていただきました。

2 日目は、特別講演、自由論題報告、分科会が行われました。特別講演は、包行均（かねゆき ひとし）（筑水キャニコム会長）氏に「ものづくりは演歌だ：義理と人情で超一流のグローバル中小企業を目指す」と題し、講演していただきました。キャニコム演歌工場という言葉とともに経営戦略と経営理念についての独自の考えが全国的に注目を集めている筑水キャニコム包行会長のご講演は、趣向が凝らされ聴衆を圧倒する迫りに満ちたエネルギーなものでした。自由論題報告は国内外の会員による 17 報告が行われ、すべての会場で喧々諤々な議論が展開されました。分科会は、3 分科会が開催されました。

3 日目は、午前中に統一論題補報告、午後に統一論題シンポジウムが行われました。第 31 回大会は、学会の 3 年間の統一論題のテーマ「モノづくりの革新と工業経営研究の課題：日本の再生」のなかでも特に「日本の再生」に力点を置き、「日本の再生と工業経営研究の課題」を統一論題に定め、日本（日本企業）の『モノづくり』の再生について「生産（生産システム）の再生」、「教育の再生」、「地域の再生」を切り口に検討されました。統一論題は、中道一心（同志社大学）会員による「流量と流速の変換機構『タイミング・コントローラー』から見る生産システム研究」、島内高太（拓殖大学）会員による「モノづくり人材育成「再生」の条件：学習のプロセス・効果・環境への注目」、中瀬哲史（大阪市立大学）会員による「地域再生と環境経営を織り込んだ次代の生産システム試論」と題された報告が行われました。統一論題シンポジウムでは、午前中の統一論題報告を受け活発な議論が交わされました。

最後に、大会の準備と運営に携わることのできる学内スタッフはほんの少数しかおりませんでしたので、会員の皆様には何かとご迷惑をおかけするのではないかと危惧いたしておりましたが、プログラム委員会の皆様をはじめ理事、監事、会員の皆様に多大なるご協力をいただきましたお陰で、何とか無事に本大会を終了させることができました。心から厚く御礼申し上げます。

投稿論文募集のお知らせ（学会誌 第 31 巻 第 2 号）

学会誌編集委員長

那須野 公人

2017 年 9 月末発行予定の第 31 巻 第 2 号への投稿論文を募集します。募集期間と原稿送付先は、次の通りです。

■募集期間

2016 年 11 月 1 日～2017 年 4 月末日まで【必着・厳守】

論文審査は、募集締め切り後にまとめて実施します。

■連絡先および原稿送付先

〒321-3295 栃木県宇都宮市竹下町 908 番地

作新学院大学 経営学部 那須野公人 宛

メールアドレス：knasuno@sakushin-u.ac.jp

※ 昨年度から年 2 回発行となり、投稿規定等も改正されました。次の点にご注意下さい。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・招待論文を除き、論文はすべて査読付となります。・ホームページ掲載のテンプレートにしたがってご執筆いただきます。そのため、校正は行いません。・キーワードを 5 ワードまで入れていただきます。 |
|---|

※ テンプレートの他、改正された投稿規定・執筆細則・投稿申請書は、学会ホームページに掲載してありますので、熟読のうえご投稿下さい。

「学会賞・研究奨励賞・若手研究者賞」候補作品の募集

本学会「内規」第 14 条により、2017 年度の学会賞（年齢制限なし）・研究奨励賞（31 歳以上 40 歳未満）・若手研究者賞（30 歳以下が対象）の候補作品の推薦を 4 月末までに、中瀬哲史副会長（会員表彰選考審査委員会委員長）または学会事務局宛にお知らせください。自薦・他薦を問いません。なお、会員表彰推薦書の様式は学会ホームページに掲載されているものをダウンロードしてご利用ください。

第 32 回全国大会のお知らせ

第 32 回全国大会は、愛知工業大学自由が丘キャンパス（名古屋市）にて以下の日程で開催予定です。

2017 年 9 月 14 日（木） 工場見学会、理事会

9 月 15 日（金）、16 日（土） 研究発表、シンポジウム、講演会、総会、懇親会、理事会

大会企画委員長 野村重信（愛知工業大学）

大会実行委員長 近藤高司（愛知工業大学）

第 10 期 2016 年度第 1・2・3 回理事会報告

日時：(1)2016 年 9 月 8 日（木） 17:00～

(2)2016 年 9 月 9 日（金） 11:50～

(3)2016 年 9 月 10 日（土） 12:20～

会場：(1)福岡大学博多駅クリニック会議室

(2)(3)福岡大学七隈キャンパス 2 号館 23A 教室

【報告事項】

1. 会員異動について（藤原）

昨年 9 月以降の新規入会者は 19 名、退会者は 8 名、逝去者は 1 名で、2016 年 8 月 10 日時点の会員数は 326 名（正会員 258 名、院生会員 55 名、シニア会員 3 名、名誉会員 10 名）。

2. 生産経営賞の選考・審査・授与に関する内規の改訂について（風間）

3 月開催の理事会にて承認された内規の改訂。内規第 15 条(5)③「・・・会長は候補事例を副会長と学会幹事に諮り、・・・」を「・・・会長は候補事例を副会長と学会監事に諮り、・・・」と「・・・会長は候補事例を副会長と学会幹事に諮り、・・・」と改訂する案を会員総会に諮ることが確認された。

3. 学会誌のあり方について（那須野）

近年対応が厳しくなっている学会誌への二重投稿や自己剽窃の問題について、会員総会において注意喚起を行うことが確認された。

4. 学会誌の出版状況について（那須野）

第 30 巻第 1 号より年 2 回発行体制に移行し、第 2 号の発行に向けて作業が順調に進んでいる。新しい学会誌発行体制について、問題点はないか検討したい。

また抜き刷りの希望欄に関して論文投稿申請書の修正を行った。今後、英文での論文投稿も視野に入れ、英文テンプレートの作成も検討する。

5. 生産経営賞の表彰について（風間）

3 月に見学に伺ったトプコン株式会社に対して、生産経営賞を 9 月中に授与する。

6. 会員名簿の作成について（藤原）

前回の 2013 年の名簿作成から 3 年が経過していること、また 2016 年度に名簿作成積立金の累計額が 160,526 円に到達することから、2017 年 3 月の完成・郵送を目途に、名簿作成を行う。

作成の要領は前回と同様で、2016年11月に学協会サポートセンターから個人情報のデータシートが各会員に郵送されるので、修正・変更、名簿不掲載希望項目がある場合は、2017年1月末日までにFAXかEメールで学協会サポートセンターに直接連絡をお願いしたい。

7. その他（藤原）

経営関連学会協議会の2015年度活動報告と2016年度の活動計画の報告。電子版英文ジャーナルの創刊号が11月刊行を予定し、現在作業が進められている。また加盟学会推薦論文枠が新たに設けられた。電子版英文ジャーナルの投稿については、協議会HPを参照されたい。

【審議事項】

1. 2015年度（2015年7月～2016年6月）会計決算（中島・藤原）（野村）

主な収入は2015年度会費が168万円、著作権収入が6万円、その他の収入12万円など、合計187万円。主な支出は学協会サポートセンター業務委託費29万円、全国大会補助費25万円、学会誌発行費57万円、郵便通信費14万円、印刷費6万円など、合計169万円。年会費の納付率が低かったため、収入が予算額よりも大幅に低くなったが、新たな学会誌発行体制の下での経費節減により、学会誌発行費が予算の半分に抑えられた。よって、次期繰越金が昨年よりも多い247万円となった。その他、財産として特別事業積立金が140万円、名簿作成積立金が11万円ある。以上の決算状況について報告され、会計監査の野村監事の監査済みであることが報告された。以上の内容を審議の結果、これを承認した。

2. 2016年度（2016年7月～2017年6月）会計予算案（中島・藤原）

昨年度と同様、会費納付率を80%とやや低く見積もって、会費収入は183万円。支出では、学会誌発行費が旧学会誌発行体制時と比べて40万円と約半分となる。学会誌は年2回郵送することになることもあり、郵便通信費は30万円。支出計は205万円で、次期繰越金は231万円となり、学会誌発行費の節減により、健全な財政状況となる見込み。以上の内容を審議の結果、これを承認した。

3. 30周年記念出版事業について（廣瀬）

書名を『変革期モノづくり革新と工業経営研究の課題』とし、中央経済社から2017年8月末刊行予定で出版事業が進行中である。筆者は過去の全国大会統一論題報告者を中心に構成され、既に執筆依頼済みである。本事業の進捗状況について報告がなされ、これを承認した。

4. 工業経営賞の表彰について（風間）

9月9日に特別講演を予定している筑水キャニコム会長の包行均氏への工業経営賞の表彰について提案がなされ、これを承認した。

5. 次年度の全国大会について（風間）

次年度の全国大会は2017年9月14日（木）～9月16日（金）の日程で、愛知工業大学で開催する旨が提案され、これを了承した。

6. 会員表彰について（中瀬）

会員表彰選考審査委員会の中瀬哲史委員長より学会賞の審査報告がなされ、今年は、坂本清（2016）『フォードシステムともの作りの原理』学文社、が学会賞の受賞作品として提案された。審議の結果、これを了承した。

7. 第10期役員体制下での課題事項について（風間）

前期理事会からの引き継ぎ事項を中心とする課題として、第10期理事会では、残された5点について検討を重ねてきた。検討の結果、各々について結論は以下の通り。

①会員総会での役員選挙の在り方については、郵送方式の選出の是非や、役員候補者の個人情報の公開と推薦制度の検討が課題であった。本学会は小規模な学会であるため会員の情報は十分知られていること、全国大会の会員総会という「見える場」の中での選挙が望ましいこと、現行制度でも投票行動は会員の自主的判断に委ねられていること、などから次期役員選挙は現行通りとしたい。②会員総会での理事・監事同時当選のケースへの対応について。本ケースが生じた場合、会則等でルールを決めておくことはせず、選挙管理委員会にその判断を委ねることとしたい。③会員表彰制度の審査基準の明確化について。会員表彰の候補作品が共著作品であった場合の判断や、審査委員の判定が割れた場合の最終決定のルール等について、会員表彰選考審査委員会で検討し、審査基準案が作成された場合、理事会・会員総会において諮りたい。④海外での大会の開催について。台湾での開催を目指してその可能性を追求したが、断念せざるを得なかった。そのため、今期理事会の下では全て国内開催となる。⑤副会長3人体制について。副会長の負担過重や事務局との職務分担の明確化などの検討は必要であるが、現行の東・西それぞれの代表として選出されるという形式を維持したい。

以上の内容が確認され、これを了承した。

8. 分科会・地方部会の活性化のための支援体制の強化について（風間）

本件については以下の3点について審議が行われた。

①分科会・地方部会への出版助成については、次年度以降の財政状況の推移を見たうえで検討する。②部会と理事会との関係。会員総会において、地方部会長は理事が兼務すべきとの意見があったが、分科会・地方部会の運営・意思決定については、本学会の伝統から分科会・地方部会の意思を尊重し、理事会との関係は当面の間維持し、今後引き続き検討することとしたい。③地方部会の見直し。会員数の減少による北海道部会と東北部会との統合の要望があるが、現在東北部会は東日本部会に所属しており、会員本人の確認の必要性もあるなど、今後も引き続き検討したい。

以上の内容が確認され、これを了承した。

9. 会員数の拡大について（風間）

6年以上会費未納会員と住所不明会員について、2017年度に自然退会処理を行いたい。それに先駆けて住所不明会員については学会通信にて情報提供のお願いをし、会員情報の収集・整理を図りたい。この提案について審議が行われ、これを了承した。

また新たな会員資格として、一般会員（一般社会人）・学生会員（学部学生）の制度化の提案がなされ、様々な意見が示された。学部学生や大学教育とのリンケージを作る必要性があり、このような今後の学会の在り方について引き続き検討を行っていくこととなった。

会員移動の報告（2016.3～2016.8）

【入会者】（敬称略）

「正会員」 橋本 公美子（広島大学大学院社会科学研究所、マツダ(株)）
羽石 和樹（作新学院大学客員教授、(株)ローラン）
今村 優太（高崎商科大学大学院修了）
畠山 俊宏（摂南大学経営学部経営情報学科）
棚川 司（(株)インテルノス）

西之坊 穂 (摂南大学経営学部経営学科)
「院生会員」 陳 燕双 (同志社大学大学院商学研究科)
張 凱惠 (福岡大学大学院商学研究科)
坂本 孝生 (大阪市立大学大学院創造都市研究科)

【退会者】(敬称略)

「正会員」 森永 泰史 (北海学園大学経営学部経営学科)
高橋 与志 (広島大学大学院国際協力研究科)
安西 克巳 (栃木県信用保証協会)

【逝去者】(敬称略)

「正会員」 青山 茂樹 (静岡大学人文学部経済学科)

住所不明会員の情報提供のお願い

学会から各種郵送物を登録住所にお送りしていますが、以下の会員について宛先不明として郵送物が返送されてきています。住所不明会員について、現在のご住所等の情報をご存知でしたら、学会事務局までご連絡下さい。

【正会員】(敬称略)

今井 清文 (ハネッセグループ(株)進研アド大阪本社)	張 慧娟 (名古屋外語大学)
金 漢洙 (東岡大学産業情報経営科)	倪 小堅 ((株)JCI)
国友 豊 (呉大学社会情報学部)	平井 旭 (ドイツ・オーストリア環境研究所)
J.A.T.D.Nishantha (山口県立大学国際文化学部)	藤岡 純一 (株式会社ダイケン)
篠原 敦子 ((株)合同総研)	松山 清喜 (ライフサイクル 代表)

【院生会員】(敬称略)

浅井 潤司 (同志社大学大学院)	譚 桂蓮 (福岡大学大学院商学研究科)
東 正志 (同志社大学大学院商学研究科)	陳 建 (関東学院大学大学院経済学研究科)
緒方 太郎 (早稲田大学大学院社会科学研究科)	陳 勇 (愛知工業大学大学院)
風間 正行 (早稲田大学大学院社会科学研究科)	陳 亮 (大阪産業大学大学院経営流通学研究科)
片岡 洋子 (関西大学大学院商学研究科)	橋本 広直 (駒澤大学大学院経済学研究科)
清水 洋一 (高千穂大学大学院経営学研究科)	マスケ ルペス (愛知工業大学大学院)
高見 仁 (関西大学大学院商学研究科)	李 夢軍 (中央大学大学院商学研究科)

会員名簿情報のご確認のお願い

今年度に学会の会員名簿が更新・作成されます。今回の学会通信と同封で、会員名簿に掲載する皆様の情報シート（「会員名簿作成にあたってのお願い」）をお送り致しました。掲載の会員情報をご確認いただき、修正・変更・追加のある場合、また不掲載を希望される欄がある場合、FAX もしくは E メールで学協会サポートセンターにご連絡をお願い致します。詳細は、同封の「会員名簿作成にあたってのお願い」をご参照ください。

工業経営研究学会 学会通信 83 号 (16-11) 2016.11.25

発行人 風間 信隆 編集担当 鈴木 美代子

学会事務局 駒澤大学経営学部 藤原篤志研究室内

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

Tel: 03-3418-9225

E-Mail: fujiwara@komazawa-u.ac.jp, HP: <http://asimj.jp/>

会員事務（会費納入、住所管理、学会通信・学会誌の郵送など）担当

（有）学協会サポートセンター

〒231-0023 横浜市中区山下町 194-502

Tel: 045-671-1525, E-Mail: scs@gakkyokai.jp